

フィンランド調査報告

橋本紀子

フィンランド調査日程

月日	会った人	訪問先	内容
8/25	Pirjo-Riita Kuusikko (M.A) ヘルシンキ大学アジアアフリカ学部日本語講師(非) ----- 岩竹美加子 ヘルシンキ大学アジアアフリカ学部日本語講師	ヘルシンキ大学図書館・本屋 " 社会学部図書館 " 学生図書館 ----- アジアアフリカ学部	文献検索とコピー " " ----- 初対面
8/26	Liisa Savunen (Special Researcher) Anita Haataja (M.A) Anne Passikoski	男女平等委員会	男女平等関係の資料をもらう。 ここで平等委のメンバーのかなり多くの人に紹介される。日本の状況を説明する。
8/27	Asta Sarjala (Counsellor of Education) Reijo Aholainen (Head of the International office) Harri Laine (Counsellor of Engineering Education) Heidi Peltonen (B.A, Master of Health Care) E・LISBETH (BETTY) DONALDSON (p.h.D) カナダ、カルガリー大学教授 山田真知子 北海道大学 DI	国立教育局 ----- 山田宅	フィンランドの教育制度、内容に関する資料収集。同日、カナダの教授もきていたので昼食会に招かれる。中・高校生の教育、女性問題などについての意見交換。 ----- フィンランドの福祉について意見交換
8/28	Elina Lahelma (p.h.D) ヘルシンキ大学教育学部講師 ヘルシンキ大学教育学部講師のボス、教授	ヘルシンキ大学医学部図書館 ヘルシンキ大学教育学部 ----- ヘルシンキ大学教育学部図書館	文献コピー フィンランドの教育とジェンダーについての意見交換 テキストなどを紹介してもらう。 ----- 文献検索とコピー
9/1	Anne Passikoski ----- Christina Huldén (言語セラピスト) E・LISBETH (BETTY) DONALDSON	平等委員会 ----- エプ・ラティ・通りの国立出版センター ヘルシンキ市教育委員会 ----- BETTY の友人のアパート	文献収集についてアドバイスを受ける。 ----- 教科書などを購入 教科書を取得 ----- BETTY の作成した“女性のライフサイクル”をイメージ化したミュージカルのビデオを観て意見交換。5人参加。
9/2		法律書専門の国立出版センター ----- ヘルシンキ大学教育学部図書館	保育法、婚姻法、子どもに関する法律等の文献購入 ----- 文献コピー
9/3	Kampi 保育園の園長	Kampi 保育園 退職者のための Day Center	保育園の見学 ----- 施設見学
9/4	Asta Sarjala Pirkko Uesterinen (M.A. 栄養士) 国立教育局、ホテル・料理などの専門学校の部署の長	あるホテルのホール	フィンランド女性ライオンズクラブの例会に参加。退出時に短いスピーチをさせてもらう。 30数名の集まり。
9/5	Elina Haavio-Mannila (p.h.D) ヘルシンキ大学社会学部教授 ----- 岩竹美加子	ヘルシンキ大学社会学部 ----- ヘルシンキ大学アジアアフリカ学部	エリナ先生の“Work, Family and Welfare”についての議論。 本、資料など多数取得。 ----- フィンランドの社会、風俗などについて情報交換。
9/6		ヘルシンキ大学書籍部	本購入

らに、九〇年代には個性化と選択の強調により、総合制学校の選択科目における男女数の偏りのような、教育現場に根強く見られるジェンダーバイアスを是正するための積極的方策がとられていない、などの指摘をしました。

日本でも同様の議論はありますが、私にはかなり次元が異なるように思われました。九〇年代の文書によると、フィンランドでは、民族、地域、社会階層などの視点からの平等とともにジェンダーの視点に立つ平等の促進も、カリキュラム編成の指針の一つとされています。こちらで行われているのは、その指針に基づいて男女平等教育のための教員養成用・生徒用のテキストがすでに作成され使用された上で、その改善のための議論なのです。

女性団体のことなど

ヘルシンキ大学のハーヴィオ・マンニラ教授は、六〇年代の北欧の性別役

割分業論争以来、ジェンダー問題に関する調査研究を精力的に行ってきた人で、最近ではフィンランドの青年と大人の性行動調査とそれに基づいた著作を発表しています。『労働、家庭、幸福』（92年出版）についての意見交換をするため、一八年ぶりに研究室を訪ねました。

この本は職業（技術者、教師、工場労働者）と性と地域（ストックホルム、コペンハーゲン、ヘルシンキ、モスクワ、タリン）の三つを視座においた比較研究です。私の興味をひいた見解の中には「社会の近代化の指標として重要なものは、家庭と職場の男女平等、上司と部下の間などにおける人間関係の民主化の程度である」「職場における同僚間の距離（ラインに並んでいるか、個室をもつての仕事かなど）は、隠れたジェンダー問題である」などがあります。

ここで議論の詳細を語る余裕はない

のですが、最後に私は、婦人参政権運動以来の伝統的婦人団体「ウニオニ」や、婦人民主同盟、フェミニズムグループの消息を尋ねてみました。じつは、これらの団体は休眠中であるからと、フィンランド女性ライオンズクラブの例会に前夜招かれて驚いていたのです。教授の話では、多くの女性団体が六〇年代から七〇年代後半にかけて掲げた平等権要求が八〇年代までにその性格を変えたこと、すなわち女性のライフサイクルの現実に即しての議論や女性性への注目が進みだしたことで、休眠中といわれるような諸団体の状況とは関連があるのではないかということでした。

持ちかえった資料の分析はまだ十分ですが、私を含め日本の社会と教育現場でのジェンダー問題への反応の鈍さ、国際的視野の狭さを改めて感じさせられた調査旅行でした。

（女子栄養大学教授）

フィンランド

平等教育調査の旅

橋本 紀子

八月から九月にかけての一三日間、男女平等教育に関する教科書・教材を求めてヘルシンキを訪れました。一八年前に二年半ほど住んでいたとき以来の今回の訪問で、印象に残ったことをいくつか記してみます。



ハーヴィオ・マンニラ教授と

平等を教える副読本

男女平等委員会では多くの資料を準備して待っていてくれました。委員長をはじめスタッフの大部分は女性です。国立教育局出版部では「友だちからのお話」という小学校低学年用の副読本を入手しました。世界の子どもと平等に仲良く暮らそうと、各国の民話が見開きページにフィンランド語と各国語とで書かれています。ちなみに日本は「花咲かじい」でした。世界各国の絵や文字が一冊にまとめられている楽しい本で、それぞれの国が独自の文化と言語をもっていることを実感できる工夫がされています。教育局のスタッフは、民族、性、階層、地域、障害の有無などを平等の視点として持っていることは、後日読んだ別の資料からもうかがい知ることができました。ちようどカナダから訪れていたカルガリー大学メディア学部教授と私

を、教育局のスタッフが昼食会に招いてくれました。彼女は、女性の一生の歴史的变化をミュージカル風に作ったビデオの宣伝のために各国を回っているところでした。その席で、フィンランドの高校生にもドラッグがひろがって問題になっていることを聞きました。

教育政策におけるジェンダー

ヘルシンキ大学教育学部のエリナ講師はジェンダーと教育を専門分野としており、九〇年版と九六年版の教員養成用テキストを紹介してくれました。彼女によれば、性別役割分業論争直後の七〇年代は、男性、女性、少年、少女という実際の性別状況をふまえてのジェンダー論議だったが、八〇年代の教育政策は、性的中立（ジェンダー・ニュートラルティ）としての平等を前面に押し出すことによって、現実には存在するジェンダー問題を看過する結果となったといえます。エリナさんはさ